

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370103974
法人名	有限会社コミュニティ
事業所名	グループホーム もろびと
所在地	岡山市南区箕島2900-1
自己評価作成日	令和 2 年 2 月 15 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 2 年 3 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

岡山市の中でも比較的静かで自然豊かな環境の中で、四季を取り入れて生活していただいています。食事は、旬のものをできるだけ多く取り入れたメニューを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長を中心に様々な経験を積んだ職員とタッグを組み、利用者が少しでも日々を楽しく暮らせるように模索検討をしている。立地の自然だけでなく職員と自然に同調しているこの施設だからこそ、少しでも活気が出るようにコロナ禍でも地域との交流を欠かさないように足を運ぶ企画を取り図っている。なかでも、近所のお店に卵を買いに行き、利用者が喜べる晚餐に彩ったりもしている。室内では、福笑いで顔を作るゲームをして、腹の底から笑いこける場も企画している。そんな人生を楽しめる施設づくりに励んでいるファミリーがコミュニティを重ねながら集っていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域を大切にしている取り組みを行っています。	経営理念は玄関に掲示していて、申し送り時に伝えている。利用者の思いや気持ちが一番大切だと考えているので、申し送り時に出た問題点を課題としてあげて、話し合いをすることによって、日々の業務に活かしている。	職員全体に経営理念や方針を浸透させる工夫を構築してはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り等に参加し、積極的に交流できるようにしています。	コロナ以前は、地域の桜まつりへ参加し、認知症の広報活動をしていた。今年度は町内会主催の溝掃除に参加し、地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の祭りの際には、パンフレット等を作成して、認知症やその支援の方法について理解をしていただけるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を中々開けていないのが、現状です。	現在の運営推進会議は、資料提出する形式で行われている。会議には、町内会長・ふれあいセンターの地域包括・家族が参加している。また、入居者の家族から頂いた施設に対する意見を活かせるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議等に参加し、意見交換等を通して相互の協力関係の構築に努めています。	提出書類の窓口は社長で、苦情の窓口は管理者が行っていて、出来るだけ行政と密に情報を交換できる様にしている。今年度は、保健課の職員にマスクをもらうこともあり、連携はとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則的に身体拘束はしないように、カンファレンスなどで、話し合います。	身体拘束のパンフレットを参考にしてボーダーラインを決めている。また、カンファレンスを週1で行うことで、利用者の行動抑制をしないよう配慮している。スピーチロックしてしまった場合は、その場で注意し、ノートに記入することで全職員で共有することができている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	カンファレンスで、話し合います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要が、あれば支援します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に面接を行い、ご理解いただいでから、ご入所いただきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約前の面接の際に、苦情等の受付方法についてご説明しています。	入所時に、フェイスシートを作成して、本人や家族の意向を確認している。コロナワクチンの事で家族に電話をした際に、出た意見や要望を反映できるようにしている。玄関での面談は許可しているので、施設に足を運ぶ家族もいる。	社長の得意分野を活かした、コンピュータの活用[オンラインやテレワーク]をして、家族との意見の反映や利用者の思いを汲み取る方法をしてはいかがでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で、機会を設けています。	毎月開催している職員会議では、多くの意見が出ていて、管理者は職員の意見に耳を傾けている。ここ1年は職員の入れ替わりがないこともあり、互いの職員が何でも言える関係を築けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他施設への研修を行い、自らの介護を振り返ったり、比較したりする機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への研修を行い、自らの介護を振り返ったり、比較する機会を設けています。 外部の研修等を希望された場合にも、必要な援助をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と話し合いながら、信頼関係が築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と話し合いながら、信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と話し合いながら、必要なサービスの提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が、できる範囲で日常生活を一緒に行えるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と話し合いながら、信頼関係が築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と話し合いながら、なじみの場所との関係継続に努めています。	家族の他に、入所以前の知り合いの方も利用者に会いに来てくれる。コロナの影響で、外出が難しくなる中でも、近所にある卵の直売店やコンビニへの散歩は行って、馴染みの場がなくなるらないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの個性を大切にしながら、支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族と話し合いながら、関係継続に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの個性を大切にしながら、支援しています。	利用者が何気なく発する日常会話から思いを汲み取っている。あまり話をしない利用者からは、日頃のしぐさから判断するようにしている。また、1対1の場面や入浴時は、利用者の意見が出やすく貴重な場となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それぞれの個性を大切にしながら、支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの個性を大切にしながら、支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と話し合いながら、介護計画に反映できるように努めています。	入所後、1週間でケアプランを作成し、家族や本人の思いを把握しながらプランを立てている。介護保険の更新時や様態の変化に応じてプランの見直しを行っている。医療的な面については、ドクターの意見を聞いてケアプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスで、話し合っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小さい事業所ならではのサービスを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全を配慮した上で支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と本人の希望に応じてかかりつけ医の受診を支援しています。	かかりつけ医は、家族や本人が決めるが、全利用者が提携に転医している。協力医は24時間体制で月2回の訪問がある。皮膚科と泌尿器科も月に2回あり、他には、歯科、訪問看護もあり、医療関係者とは、何でも話せる関係が築けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医とも連携し、適切な看護が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	必要性があれば、入院中も病院のワーカー等とも連携し、積極的に支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要性があれば、積極的に支援して行きます。	入居時に看取りについての説明をしていて、緊急時に備えて、家族に早めに了承をとるようにしている。医師や訪問看護とも連携し、より良い終末期が迎えられるように支援している。今年度はコロナにより勉強会が実施できていないが、終息後に実施を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救急救命の講習を受講しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っています。	避難訓練は火災をメインに年2回実施している。地域の消防団とは連携が取れていて、何でも相談できる関係が形成されている。消防団長と会って話し、利用者の誘導のお願いをした。消防計画は社長が作成している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの個性を大切にしながら、支援しています。	呼称は、基本的には名字で「さん」づけ。トイレや入浴時には、必ず扉を閉め、おむつ交換時もカーテンも閉めるようにしている。トイレ失敗時には、「ちょっと部屋のほうに行こう」とさりげない言葉掛けをして、プライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの個性を大切にしながら、生活支援しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの個性を大切にしながら、支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの個性を大切にしながら、洋服や髪形など個別に支援しています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを一緒に決めたりしています。	利用者の意見を聞き、食べたいものを提供できるようにしている。節分には恵方巻、春には農協が持って来てくれる蕨、クリスマスにはケーキ、誕生日には赤飯や寿司を提供することで季節感を味わえるようにしている。庭先で収穫した旬な野菜や果物が食卓に並ぶこともある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嚥下状態に合わせた食事を提供しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを支援しています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせたトイレ誘導をしています。	個々の排泄パターンをカルテに記載し、その人に合わせた言葉掛けをしている。失禁が多い人には、トイレ誘導を多めにしたり、パットを大きくしたりするように工夫している。おむつからリハパンに変わった人もいる。夜間もポータブルトイレを使用せず、トイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の薬の回数の調節や便秘予防の食材を摂るように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの状態や希望に合わせた入浴を支援しています。	1週間に3回。寝たきりの人は風呂に入らずに清拭をしている。入浴を嫌がる利用者に対しては、リビングにいるときに、「ご飯だよ。こっちに来てー」と言って誘導している。入浴剤の使用やゆず湯を提供することで、季節感が味わえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせた起床・入眠時間を調整して生活できるように援助しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの状態に合わせた薬を提供できるように医師と連携しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた役割を考慮して、楽しんで生活できるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの状態に合わせた活動を、家族に協力してもらいながら援助しています。	コロナの影響で遠出が出来ないため、庭の草取り、花の水やり、里いも植えを利用者と一緒に行うことで新たな外出支援に変わる取り組みを行っている。ゴミ捨てに行った時に、「最近走ってないやろ？」と言葉掛けをして、一緒に走ることもある。利用者の家族が、誕生日に肉を食べに連れ出したことがあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に協力してもらいながら、援助しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、援助しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けをしたり、快適な温度・湿度になるよう配慮しています。	玄関からお香が爽やかなかおりを嗅がせ癒しを導いたりリビングで、利用者は思い思いの時間をゆったりと落ちついて過ごしていた。壁面には、職員が今年の干支に合わせて丑をモチーフにした利用者の自己紹介を掲示して、地元の中学生在が作ってくれた野菜や果物の写真があたり利用者にも食べられるように飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	認知症の施設という中で、工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談して、なじみの家具を持ち込んだりするなどの、工夫をしています。	掃除が隅々まで行き届き、入居者の好きな花の絵を飾っている人やテレビを持ち込んでいる人もいた。同じドアなので夜間は間違いやすいこともあり、表札をA4サイズで大きく表示し、一目瞭然となるようにしていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症の施設という中で、工夫をしています。		